

シーニックバイウェイルート提案の応募結果

1. 概要

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウェイルートとして12ルートを指定、候補ルートとして2ルートを登録しています。

新たに「天塩川シーニックバイウェイ」の1ルートについて提案がありました。

2. 提案のあったルート

○シーニックバイウェイ指定ルート（1ルート）

| ルート名称 | 代表者名 | 代表者の所属 | 構成 団体数 | 関係市 町村数 |
|---------------|---------------------|------------------------|-----------|------------|
| 天塩川シーニックバイウェイ | よしだ 吉田 はじめ 肇 | NPO 法人 なよろ観光まちづくり協会 | 25 | 9 |

ルート審査委員会の審査結果

(1) シーニックバイウェイ指定ルート

天塩川シーニックバイウェイ

表1-1 【審査結果】

| 審査の 視点 審査委員 | 視点1 | | | | | 視点2 | 視点3 | 視点4 | ルート指定の 推薦の可否 |
|-----------------------|-----------------------|----|----|----|----|-----------------|-----------------|----------------------------|-----------------|
| | 国内において優位性が認められる主な地域資源 | | | | | 活動団体の主導的な 推進 | 地域の魅力向上への 取組 | 景観の質の向上 ブランド化 地域の活性化 | |
| | 景観 | 自然 | 文化 | 歴史 | レク | | | | |
| A | ○ | ○ | ○ | - | ○ | 認められる | 認められる | 認められる | ○ |
| B | ○ | ○ | ○ | - | ○ | 認められる | 認められる | 認められる | ○ |
| C | ○ | ○ | - | - | ○ | 認められる | 認められる | 認められる | ○ |
| D | ○ | ○ | - | - | ○ | 認められる | 認められる | 認められる | ○ |
| E | ○ | ○ | - | - | ○ | 認められる | 認められる | 認められる | ○ |

平成29年10月24日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイルート指定等について

○シーニックバイウェイ北海道実施要綱第18条第一項及び第二項の規定に基づき、次のとおりシーニックバイウェイルート指定を行う。

■指定ルート

ルート名：天塩川シーニックバイウェイ

関係市町村：和寒町、剣淵町、幌加内町、士別市、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町

提案者：天塩川シーニックバイウェイルート代表者会議

なお、上記指定・登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会 意見

■シーニックバイウェイルート

「天塩川シーニックバイウェイ」に対する意見

○優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性

北欧、スカンジナビアの香りを感じさせる日本離れした雄大な美しい景観は天塩川を基軸に、名寄川、剣淵川、雨竜川の恵み深き清流、地域面積のほとんどを成す森林、穢れの無い神秘的な北の湖シュマリ、そして氷雪や極寒地ならではの自然現象、すべてが地域の宝物と云えるユニークな観光資源で、道内・日本国内・アジアの地域の中でも優位性が感じられる。

ルートコンセプトである天塩川の雄大な景観を基本として、一面白銀におおわれるそば畑、その他どこからでも眺められる雄大な景観は本ルートの強みである。

どのルートより極寒の地であるという自然条件はその生かし方次第では大きな魅力となる。また、自転車やカヌーを楽しむということではルート全体が巨大なレクリエーション空間であり、大きな魅力となっている。

○活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進、地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取組、景観の質の向上ルートのブランド化・地域の活性化

観光協会を中心に各地域団体が運営計画の策定とその実現について、主体的、主導的に活動を継続しており、高く評価できる。特に、幹事クラスの平均年齢が低いことは活動団体の高齢化が課題となっている他ルートに比べて特筆できる特徴である。また、広域観光周遊ルートに関連する他ルートとの協働も活発であり、さらに進めていただきたい。

商工会、観光協会中心という組織構成であり、これは機動性・継続性、ビジネス化という観点から評価できる。また、地域のNPO組織や住民・農民との連携も考慮されている。と同時に、高齢少子化の進んだ過疎地域であるが故の人材不足、本格的観光地ではなかったが故の住民意識に希薄さとそれを解消するための重要性についても認識されており、これらは運営計画に反映されている。今後期待したい。

景観を「光景」「風景」「情景」に分けて捉えながら、活動方針を共有して、活動計画をより具体化し、「地域住民連携」、「公民（住民＋企業住民）連携」、「広域連携」によって、活動方針を着実に実装化することを期待したい。